

言葉と発達

いまだき子育てアドバイス
連載・118



ことばを育てる 遊び方教室

その1



言語聴覚士 中川信子

東京都調布市の健診と フォロー

東京都調布市でSTと保健師で試行的に始めた「ことばを育てる遊び方教室」をご紹介します。ST主体だったために特色のある運営ができたのは確かですが、ST不在の市町村でも、応用していただければ願っています。

私は調布市の1歳6カ月健診の事後フォローに昭和60年から参加しています。そのころは今も、事後フォローが目ざすものは変わらず、「子どものすこやかな育ちを保障し、親子の生活が楽しいものであるよう支援すること」です。ですから、何らかの障害が原因で育てにくかったり、ことばが遅かったりするお子さんには、通常以上に濃い支援が必要となります。早期に発見すること。それは、調布市の乳幼児健診事

業が築いてきた貴重な実績だと感じていますし、その過程に参加できたことを誇りに思っています。

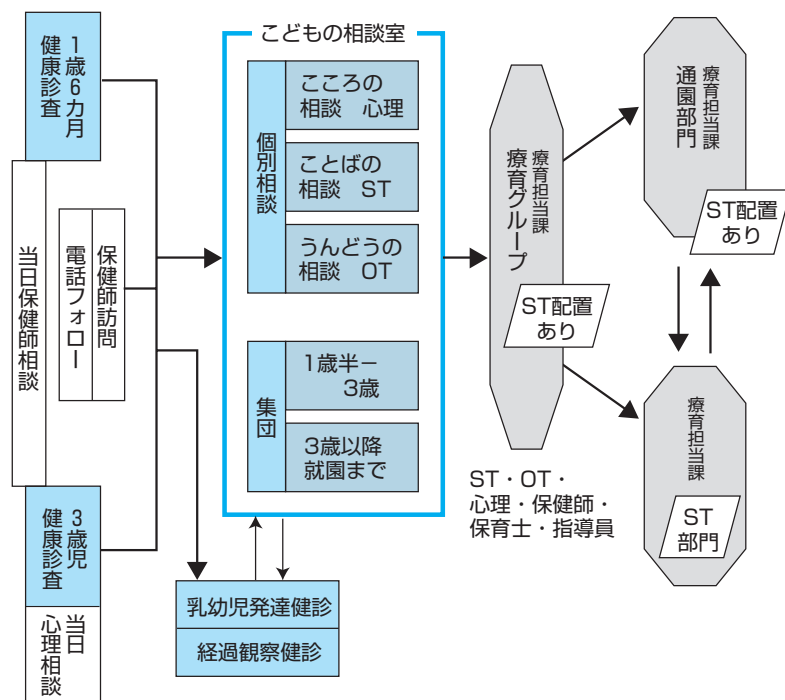
「必ず受け皿につなぐ」ということで、調布市が用意した受け皿は次のような種類に分かれています。

フォローが必要とされたお子さんは、地区担当保健師による電話や訪問でのフォローを経て、「子どもの相談室」を紹介されます。「子どもの相談室」は個別と集団に分かれます。個別はST（言語聴覚士）による「ことばの相談」、心理相談員による「こころの相談」、OT（作業療法士）による「うんどう相談」があります。

集団のグループワークは、1歳6カ月から3歳までのグループと、3歳以降就園までの二つがあります。こちらは心理相談員・保育士・保健師が中心です。

この心理主体のグループはどちらか

調布市の健診後フォローのしくみ 概要



というところやかな遊びの中で子ども
の発達とお母さんの不安解消を目指し
ているといえます。参加者の内容によ
って、グループの印象もだいぶ違いま
す。

それに対して、専門職（心理、ST、
OT）が「発達上の問題がメインにな
る」と見立てたお子さんは、より療育
の色合いの濃い「療育グループ」にご
紹介します。さらに支援が必要なお子
さんは、このグループ終了後に定期的
な療育への参加が始まる場合もありま
す。

このシステムについては拙著「健診
とことばの相談」（ぶどう社）でご紹介
しています。



フォローにつなぎにくい 事情が増えて

1歳6カ月健診当日、有意語がまっ
たく出ていなかったり、行動上気がか

りな点があるお子さんは、当日保健師
が相談を受け、「2歳ごろに電話しても
いいですか？」の了解をもらいます。
親御さんの心配があるなら「ことばの
相談」（個別）を予約するという手立て
を講じます。

2歳歯科健診の際に地区担当が顔を
出したり、兄弟姉妹の健診時に顔を合
わせるようにしたりするなど、さまざ
まな工夫をして「顔の見える関係」を
作るようにしています。でも気軽に相
談に来所してもらいたいと思っではい
るものの、個別の「ことばの相談」に
お誘いすること自体が年々難しくなっ
てきています。

調布市の場合、保健師さんたちの
見る目が確かなので、「気がかり」と判
断したからには、それなりの理由があ
るのですが、「心配していない」「生活
上で困ることがない」「こちらの言うこ
とはわかっているので安心していい」

のは簡単ですが、電話の前で「ふうー」
とため息をついている保健師さんの姿
を見るにつけ、STとして個別相談と
は違った形で保健師さんたちを助け、
また親子のすこやかな暮らしを支援で
きないだろうかとの思いは以前から持
っていました。でも、STひとりでは
なかなか難しいし……と躊躇していた
ところ、3年前から若き有能なSTの
同僚ができ、いろんなことを相談しあ
えるようになりました。そして二人で
意気投合したのが、この「ことばを育
てる遊び方教室」構想でした。

母子担当の保健師さんたちと話し合
いを重ねた結果、

○各保健師が毎月行っている2歳の電
話フォロー対象のお子さん（月に10名
とか12名とか）に1回来てもらって
○ことばの発達についてレクチャーを
したり

○簡単な遊びを紹介したり



「ことばを育てる 遊び方教室」の対象

「遊び方教室」にお声かけしたのは、
健診当日に次のようなことが見られた
親子さんたちです。

○1歳6カ月健診で、有意語がない、
または2-3語のお子さん

「3歳までは様子を見たい、自分の弟も
ことばが遅かったので」などという親
御さんを説得して「ことばの相談」に
来ていただくのは至難のわざです。ほ
んとに心配がないお子さんだったら
「小さな親切、余計なお世話」になっ
ちゃうかもしれません。

また、最近、力量のある保健師が見
ても、お子さんの状態が見極めにくく
果たして個別相談に誘うべきかどうか
迷うことも増えています。

さらにお子さんの側の問題というよ
り、保護者のかかわり方が不十分であ
るために、お子さんの発達が思わしく
ないのではないかと思われる親子も目
立つようになっていきます。



「ことばと発達」の個別フォ ローに代わりうる、補完的 グループ

「2歳ごろに電話する」と一言で言う

○視線が合いにくい、指差しがあいま
い、ウロウロ動き回るなどの点が見ら
れた

○個別相談や心理のグループにお誘い
してみたが、断られた

○親のかかわりが不足しているのでは
ないかと感じられる

○その他、健診当日に保健師が「フォ
ローが必要」と考えたお子さん

これらは従来「2歳で電話」の対象
です。「2歳で電話」は存続するとして
も、そのうちの何人かがこの教室に來
てくれれば、保健師さんの負担も少し
は減らせるというものです。

【お誘いのポイント】

「ことばが少ない」「遅れている」「心
配」を前面に出すことは極力避けたい
と思いました。その代わり、「ことばの
専門家が／ことばが育つ工夫や楽しい
遊びを示します。／おうちでもできる

ような内容なので／きつと参考になりますよ」というポジティブメッセージでお誘いできたうれしいな……。

そんな願いをもとに、保健師さんたちがかわいらしいお誘いチラシを作ったのださり、反応は上々でした。

当日参加のお子さんの年齢は1歳10カ月から2歳3カ月まで。まさに「2歳で電話する」の対象であり、親子のコミュニケーション改善や積極的介入が効果的と思える年齢です。

一回目は19組、二回目は15組の親子さんたちの参加がありました。

【当日スタッフ】

スタッフの内容は次の通りです。

ST 2名（リーダー・サブ）

保健師 2名

児童館職員 2名

児童館職員に協力をおおいだのは、市内で親子を支える立場の職員同士が

交流したり連携したりできたら……との思いから。

市内の児童館には「子育てひろば」が開設されており、ちよつと気になる親子も多く顔を出しています。一方、健康推進課は、結構「こわいところ」とか「行くと障害の烙印を押されそう」「育て方が悪いと指摘されそう」などこちらの願いとは別な印象を持たれているふしがあります。

児童館職員の方たちに、実際に保健師や言語聴覚士という人間（？）を間近で見えて怖い人たちではないと知っていただければ、親御さんたちに相談されたときに「保健師さんに相談してみたら？」というプッシュをしていただきやすくなるかもの思いも。

そのほかに、兄弟姉妹の預かり保育のために、シルバー人材センターの方にも依頼をして保育にあたっていたできました。実際には、兄弟姉妹が来な

くて、シルバーの方たちにも一緒に、遊びの教室を体験していただいたのですが。

【当日のプログラム】

午前9時45分ころ集合、10時開始、11時半には解散というごく短時間のプログラムです。内容詳細は次回お話ししますが、あらまは次のような流れです。

9：45	自由あそび
10：05	お集まり 手遊び・かかわり遊び
10：10	からだ遊び その1
10：25	休憩
10：35	子どもの脳を育てるには？(ビデオ)
10：45	からだ遊び その2
11：00	お集まり 手遊び・かかわり遊び
11：15	ご案内 さようなら
	さようなら